

## ワシントン州シアトルでの東北復興 PR と JETAA 活動紹介

ニューヨーク事務所

2011 年 8 月 26 日（金）、兵庫県知事を団長とする使節団が姉妹州であるワシントン州シアトルにおいて観光 PR 等を目的とした「シアトル・ひょうごセミナー」を開催した。当事務所はセミナーを共催し、東日本大震災からの東北地方の復興状況の PR 及び観光 PR を行うとともに、当地の JETAA<sup>1</sup>の協力を得、来場者に JETAA 活動の広報も行った。

セミナーでは当事務所赤木所長が東北地方の現状に関する説明及び観光地の紹介を行った。また、当事務所からの提案により今回のプログラムに組み込まれた、JETAA Pacific North West 支部(JETAAPNW)による活動紹介プレゼンテーションも行われた。

このほか、東北地方の復興状況及び観光 PR のため、会場受付前のスペースを利用して、東北地方の復興状況等を示すバナーや被災自治体が作成したニュースレター等を展示し、来場者に東北地方の現在の状況を伝えた。

セミナーには、ワシントン州関係者、姉妹交流団体関係者、JETAA など約 110 人が参加した。

### 1 バナー等の展示による東北地方の復興状況及び観光 PR

展示スペースに設置したものは次のとおりである。

#### ①バナー（大）

東北地方の地図を載せたものと地震直後と最近の写真を対比して掲載したもので、受付に訪れる来場者の目に入る位置にスタンドを立てて掲示した。

#### ②バナー（小）

7月に開催された六魂祭の様子を示したものと、自治体ごとの PR を掲載したもの（岩手県、宮城県、茨城県、仙台市）で、窓枠に並べて掲示した。

#### ③パンフレット及びニュースレター

パンフレットは、事務所に在庫があった宮城県の観光情報のほか、東北観光推進機構から電子データで提供されたパンフレット（東北地方の秋・冬の見どころが掲載されたもの）を印刷して持参した。ニュースレターは、震災後に復興状況を広報するために自治体（岩手県、福島県、仙台市）が作成したものを展示した。

セミナー開始前の限られた時間の中で、パンフレット、ニュースレターはそれぞれ 10～20 部持ち帰られており、東北地方の復興状況に対する関心の高さを伺うことができた。



展示に足を止める来場者

## 2 JETAAPNW によるプレゼンテーション

まず、支部代表の Ms. Sandra Sakai が支部活動の概要説明を行った。その中で JETAA は JET プログラム<sup>2</sup>を終了して帰国してからも日本とのつながりを保つため、日本関連の行事を実施したり、地域の日系団体との交流を進めたりしていることが報告された。

次に、支部会員で元 JETAA International 副会長の Mr. Ryan Hart が、世界に広がる JETAA 組織、JETAA USA が集めた復興支援金 (\$6,000 以上) の状況、日本での AJET<sup>3</sup> の活動を紹介した。この中で、JETAA は世界中で、日本で経験したことを母国に持ち帰り、母国の人々によりよく日本のことを知ってもらおうとしていることが伝えられた。このことは” Bring Japan Home ” というフレーズで表現されていた。

続いて、支部会員で現在シアトル・神戸姉妹都市協会の会長を務める Ms. Karin Zaugg Black が JET プログラムの CIR<sup>4</sup>として働いた神戸市での経験と、その経験が現在までの職務にどう生かされているかを報告した。CIR の業務を通じて身につけたパブリックスピーチの技能などが、現在の姉妹都市協会での業務遂行に役立っているという。

このほか、JETAAPNW 会員の中で兵庫県内に JET として勤務・生活していた 3 名の会員からもそれぞれの JET 時代の兵庫での生活の思い出が語られた。



JETAAPNW プレゼンテーション

## 3 所感

今回のセミナーでは、「姉妹交流」「JET」という人的交流に基づく国際交流の方法がうまく機能している様子を目の当たりにし、国際交流のベースは人と人とのつながりにある、ということをあらためて実感した。

まず、「姉妹交流」については、今回のセミナーが兵庫県とワシントン州の姉妹交流があったからこそ実現した。会場で、来場者どうしが、久しぶりに再会を果たして懐かしそうに思い出を話したり、近況を報告しあったりしているのが印象的であった。交流の積み重ねがあるからこそ、久しぶりの再会であっても話題を共有できるのであろう。

次に、「JET」については、JETAA からの報告で” Bring Japan Home ” というフレーズが使われたように、それぞれの国に帰国した後も日本の、地域のファンであり続けているということにあらためて感銘を受けた。JET プログラムの意義を議論する際に、受け入れ側の自治体や学校にとっての直接的な効果(地域の国際化の進展や英語力の向上といったこと)に目が向きがちである。もちろんそれは重要であるが、それだけでなく、プログラムに参加した外国人に与える効果(参加者がその地域のことを好きになってくれる、そのことが地域の魅力を高める)にももっと目を向ける必要がある、今回のセミナーを通じ、クリアとしてこの側面での PR に取り組んでいく必要があると改めて感じた。

(古川所長補佐・新潟県派遣)

<sup>1</sup> JET プログラム同窓会 JETAA (JET Alumni Association) は JET プログラムを終了した卒業生有志を中心に平成元年に構成された親睦団体です。JETAA は日本と JET プログラムに参加している諸国との相互理解を深めることを目的として活躍をしています。現在 JETAA の活動は 17 の国と地域にわたり、支部数は 52 支部、会員数は 2 万 4 千名以上となっています。

<sup>2</sup> JET プログラム (「語学指導等を行う外国青年誘致事業」The Japan Exchange and Teaching Programme) とは、外国語教育の充実や地域レベルでの国際交流を推進することを目的として世界各国の外国青年を各地域に招致する、世界最大級の国際交流事業です。CLAIR では、総務省、外務省、文部科学省と連携し、JET プログラムを推進しています。

<sup>3</sup> JET プログラム参加者の会「AJET」(The Association for Japan Exchange and Teaching) は現役の JET 参加者による自主的な組織です。全参加者の 90%近い約 4,000 人が参加し、新規来日者を含む JET 参加者への支援、地域での国際交流イベントの企画など様々な活動を行っています。

<sup>4</sup> CIR (国際交流員 : Coordinator for International Relations) : 地方自治体の国際交流部局等で主に国際交流活動に従事しています。

